

地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

＜第32回＞

スノーモンキーが人気

長野県下高井郡山ノ内町は

長野市の北東方約23km、標高約600mに位置する山間の町である。多くのスキー場を有する志賀高原や、外国人旅行者の間に「snow monkey park」として人気の地獄谷野猿公苑などが名物である。

長野駅から同町の湯田中駅までは長野電鉄の特急電車で

約50分、スノーモンキー人気の高まりを背景に電車内は外国人客が目立つ。

町内の湯田中・洪温泉郷は湯田中温泉や洪温泉など10温泉の総称で、ホテルや旅館が約100軒という一大温泉地である。しかし、利用者数は91年の220万人をピークに、

団体客の減少、スキー人口の減少もあって直近の15年には120万人まで減少している。厳しい状況が続く中で旅館の経営はひたひたし、土産品店や飲食店の閉店も散見され、衰退感はない状況にある。

この湯田中・洪温泉郷で近年注目されているのがまちづくり会社「WAKUWAKUやまのうち」である。同社は地元若

者を中心として14年に設立され、県内金融機関等



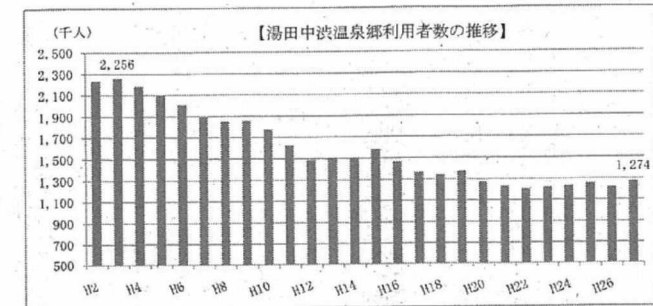
④まちづくり会社が手がけたレストラン「HAKKO」、⑤インバウンド客が目立つ湯田中駅前

長野県山ノ内町・温泉街のまちづくり会社

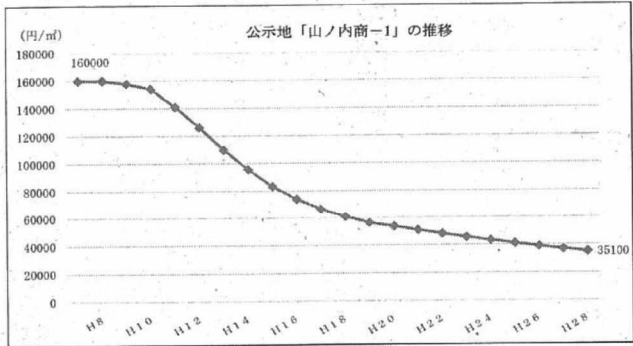
が共同設立した観光産業支援目的ファンド「AL」し、信州観光活性化ファン「AL」の融資を受けて観光関連事業を通じたまちづくりに取り組んでいる。

地域経済への期待

湯田中駅前の地価公示地（山之内商1）の公示価格の推移はグラフの通りである。95年の新設以降、地域経済の停滞を反映して地価は一貫して下落傾向にあり、現在でも底入れの兆しはない。インバウンドを意識したまちづくりが停滞した地域経済に好循環をもたらすのか、今後の取り組みが期待される。



(注) 長野県観光課の「観光地利用者統計調査」を基に作成



外国人客意識した施設 空き店舗、廃旅館を再生

現在、湯田中温泉街の空き店舗や廃旅館を取得し、リノベーションしたうえで、レストラン&バー、カフェ、外国人向けホテルなどをオープンしているほか、観光ツアーの企画、多言語での観光情報提供に取り組んでいる。同温泉街は外国人観光客の受け入れ環境がない旅館や施設が多い中で、同社はインバウンド客を強く意識した施設作

りや広告活動に力を入れている。また短期間のうちに複数の施設を整備できたのは地元金融機関によるリスクマネーの供給によるところがあり、地方創生、まちづくりの新たな好例として県内で注目されている。